

第2編  
基本構想



# まちづくりの基本理念

## 1. 将来像

**元気なまち、くらしよし、未来へ！**

## 2. 将来像に込めた思い

### 元気なまち

2020年1月から新型コロナウイルス感染症が拡大し、これまで当たり前だった生活が一変しました。人と人との交流が分断され、喜びや楽しさを分かち合うことも難しくなり、先の見えない不安が広がっています。この困難な時だからこそ、みんなの知恵を結集して、ピンチをチャンスに変える行動を起こしていくことが必要です。

子どもから高齢者まで、誰一人として取り残されることなく繋がり合い、笑顔あふれる元気なまちをつくりまします。

### くらしよし

本市は、東大山の豊かな水と土壌に生まれ、自然と共生しながら、歴史、文化を育んできました。ほどよく都市化された美しい市街地や、日常生活を支える地域コミュニティの繋がりの強さは、まさに「暮らしよし」まちを実感できます。新型コロナウイルス感染症の拡大により3密（密集、密接、密閉）を避けた新しい生活様式が作られ始めている今、心の豊かさと経済の豊かさを兼ね備えた、新しい「暮らしよし」のまちをつくりまします。

### 未来へ！

子どもたちが夢に向かって挑戦できる環境を支え、倉吉に愛着と誇りを持った子どもたちが未来に羽ばたいていきます。子どもの笑顔が、大人の挑戦する力の源となり、一人ひとりが活躍する、“元気”な“くらしよし”まちを、未来にしっかりと繋ぎ、発信していきます。また、将来像に向かって、市民みんなで取り組んでいく意気込みを感嘆符（「！」）で表現しています。



第2回鳥取中部福興祭（平成30（2018）年10月21日）

# 3. 人口の将来見通し(人口ビジョン<sup>1)</sup>)

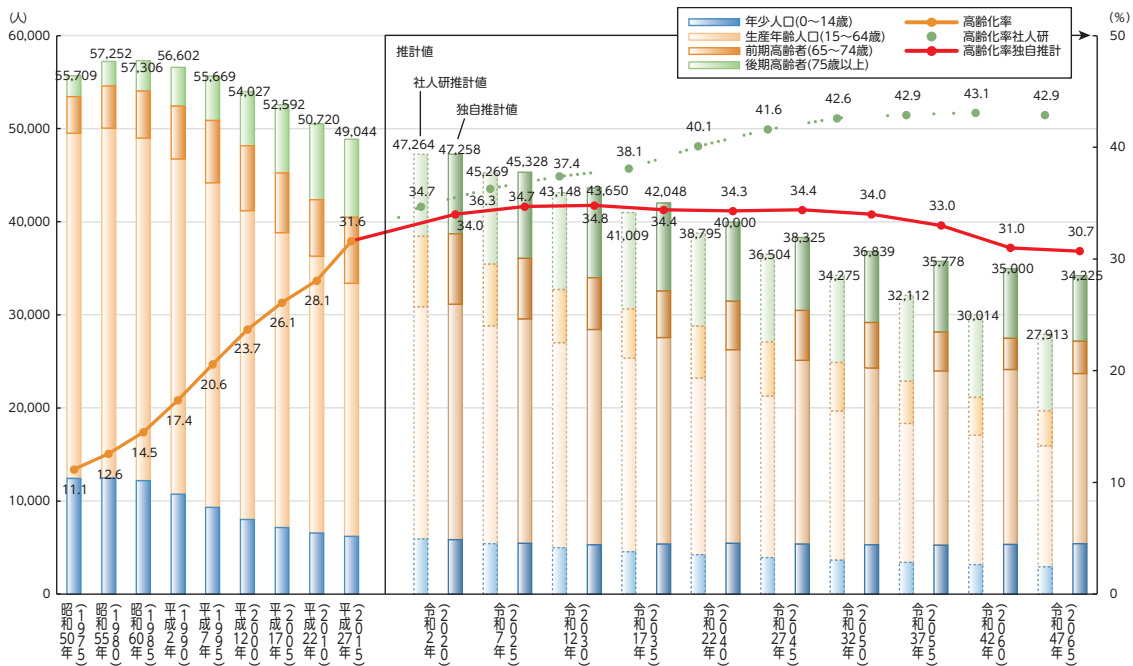
## (1) 人口の将来見通し

現在、日本全体の人口が減少局面に移行しているなか、本市においても将来的に人口がさらに少なくなる可能性は否めない状況にあります。

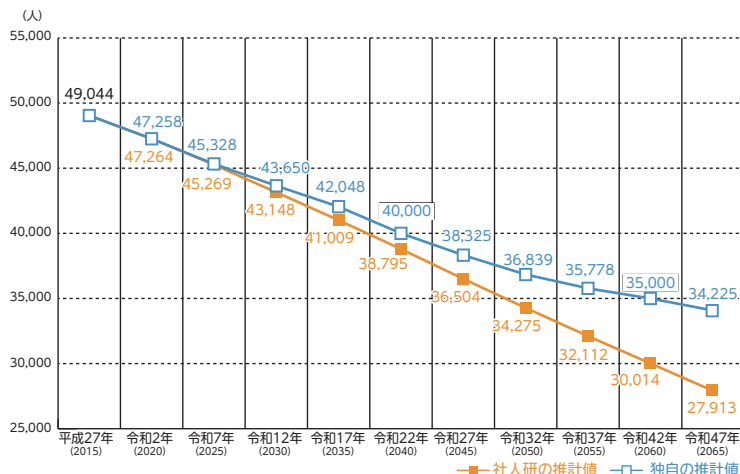
平成27年国勢調査に基づき国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」といいます。）が推計した本市の人口は、令和22（2040）年には38,795人、令和42（2060）年には30,014人にまで減少すると予測されています。急激な人口減少は、地域経済への影響が大きく、地域活力の低下を招き、少子高齢化に一層拍車がかかることが懸念されます。

本市では、まちの持続性や自立性を維持していくため、総合戦略やその他の計画に着実に取り組み、合計特殊出生率<sup>2</sup>を緩やかに上昇させるとともに、社会移動による人口減少を少なくし、令和22（2040）年には40,000人、令和42（2060）年には35,000人を維持することを目指します。

### 人口の将来見通し



### 社人研と独自推計の比較グラフ



- 1.人口ビジョン：人口の現状を分析し、めざすべき将来の方向と人口の将来展望を示したもの。
- 2.合計特殊出生率：「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。

	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)		令和7年 (2025)		令和12年 (2030)		令和17年 (2035)		令和22年 (2040)	
		社人研	独自	社人研	独自	社人研	独自	社人研	独自	社人研	独自
年少人口 (0~14歳)	6,208	5,916	5,841	5,436	5,458	4,990	5,297	4,571	5,398	4,244	5,458
総人口に占める 比率(%)	12.7%	12.5%	12.4%	12.0%	12.0%	11.6%	12.1%	11.1%	12.8%	10.9%	13.6%
生産年齢人口 (15~64歳)	27,190	24,956	25,327	23,382	24,123	22,025	23,149	20,803	22,169	18,987	20,812
総人口に占める 比率(%)	55.4%	52.8%	53.6%	51.7%	53.2%	51.0%	53.0%	50.7%	52.7%	48.9%	52.0%
老年人口 (65歳以上)	15,488	16,391	16,090	16,450	15,747	16,133	15,204	15,635	14,481	15,564	13,730
	高齢化率(%)	31.6%	34.7%	34.0%	36.3%	34.7%	37.4%	34.8%	38.1%	34.4%	40.1%
	前期高齢者 人口 (65~74歳)	7,096	7,582	7,545	6,617	6,505	5,731	5,528	5,267	5,003	5,577
	総人口に占める 比率(%)	14.5%	16.0%	16.0%	14.6%	14.4%	13.3%	12.7%	12.8%	11.9%	14.4%
後期高齢者 人口 (75歳以上)	8,392	8,809	8,545	9,833	9,242	10,402	9,676	10,368	9,479	9,987	
総人口に占める 比率(%)	17.1%	18.6%	18.1%	21.7%	20.4%	24.1%	22.2%	25.3%	22.5%	25.7%	
総人口数	49,044	47,264	47,258	45,269	45,328	43,148	43,650	41,009	42,048	38,795	40,000

	令和27年 (2045)		令和32年 (2050)		令和37年 (2055)		令和42年 (2060)		令和47年 (2065)	
	社人研	独自	社人研	独自	社人研	独自	社人研	独自	社人研	独自
年少人口 (0~14歳)	3,941	5,392	3,661	5,286	3,398	5,267	3,167	5,338	2,954	5,411
総人口に占める 比率(%)	10.8%	14.1%	10.7%	14.3%	10.6%	14.7%	10.6%	15.3%	10.6%	15.8%
生産年齢人口 (15~64歳)	17,381	19,742	16,023	19,024	14,932	18,707	13,920	18,804	12,994	18,291
総人口に占める 比率(%)	47.6%	51.5%	46.7%	51.6%	46.5%	52.3%	46.4%	53.8%	46.6%	53.4%
老年人口 (65歳以上)	15,183	13,191	14,591	12,529	13,781	11,804	12,927	10,831	11,965	10,523
	高齢化率(%)	41.6%	34.4%	42.6%	34.0%	42.9%	33.0%	43.1%	31.0%	42.9%
	前期高齢者 人口 (65~74歳)	5,778	5,351	5,206	4,867	4,534	4,193	4,041	3,334	3,745
	総人口に占める 比率(%)	15.8%	14.0%	15.2%	13.2%	14.1%	11.7%	13.5%	9.5%	13.4%
後期高齢者 人口 (75歳以上)	9,405	7,841	9,385	7,662	9,247	7,610	8,886	7,497	8,220	
総人口に占める 比率(%)	25.8%	20.5%	27.4%	20.8%	28.8%	21.3%	29.6%	21.4%	29.4%	
総人口数	36,504	38,325	34,275	36,839	32,112	35,778	30,014	35,000	27,913	34,225

※令和2（2020）年以降は推計値

## (2) 推計方法

人口の推計方法は、社人研の人口推計値を基準として人口増減の要素である自然動態（出生・死亡）と社会動態（転入・転出）について、自然動態（出生）を、令和37（2055）年に合計特殊出生率が2.07（人口置換水準<sup>3</sup>）となるよう毎年0.01ずつ上昇すると仮定し、社会動態を、令和3（2021）年から令和12（2030）年の10年間で、転出超過を年平均18人抑制すると仮定し、男女・5歳階級別に推計をしました。

### 合計特殊出生率の設定

	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和17年 (2035)	令和22年 (2040)	令和27年 (2045)	令和32年 (2050)	令和37年 (2055)	令和42年 (2060)	令和47年 (2065)
合計特殊出生率 (tfr)	1.62	1.70	1.75	1.80	1.85	1.90	1.95	2.00	2.07	2.07	2.07

3.人口置換水準：人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率のこと



## 4. まちづくりの視点

これから10年間のまちづくりを進める上で、誰もが住みやすいとすることができる倉吉市の実現を目指すため、7つの視点を大切にしながらまちづくりを進めます。

### まちづくりで大切にする7つの視点



### まちづくりの視点1 人口減少社会に対応した持続可能なまちづくり

限られた財源や資源を選択と集中によって有効に活用するとともに、未来技術の実装、地域間連携などあらゆる手段を講じ、強みを生かしながら地域課題を解決し、人口減少社会に対応したコンパクトで持続可能<sup>1</sup>なまちをつくります。

### まちづくりの視点2 地域資源を活かしたまちづくり

豊かな自然に育まれた美しい水や田園風景、白壁土蔵群を始めとする古い街並みや伝統文化など、長年にわたり大切に引き継がれてきた自然・歴史・文化や、新たに加わったポップカルチャー<sup>2</sup>・芸術などの地域資源を活かし、ここにしかない魅力を感じられるまちをつくります。

### まちづくりの視点3 芸術が輝くまちづくり

倉吉でこれまで培われてきた文化芸術の多様な価値を活かし、鳥取県立美術館の開館を契機として、より芸術に焦点をあて、一人ひとりが生活のなかで芸術に触れることで心が豊かになることを実感できる芸術が輝くまちをつくります。

### まちづくりの視点4 人が人を呼び込むまちづくり

倉吉に想いを寄せる人と人とが継続的に関わりを持つことを通じて、倉吉への愛着がより強くなり、何か倉吉のために貢献したいという人が増え、人と人が繋がり、誘い合い、エールを送り合い、人が人を呼び込みたくなるまちをつくります。

### まちづくりの視点5 住民主体のまちづくり

複雑化・多様化する地域課題に対し、自らできることを探し、実行する市民が、地域を支える多様な主体と協働し、地域の魅力や特色を見つめ直し、さらに磨きをかけ、その維持発展に取り組む住民主体のまちをつくります。

### まちづくりの視点6 あらゆる差別をなくする人権尊重のまちづくり

全ての住民が、部落差別をはじめ、障がい、性別、民族、国籍、人種、年齢、疾病、性的指向や性自認等を理由とする差別や偏見の存在を認識し、自分自身の問題としてとらえて行動し、一人ひとりの命と尊厳を守る人権尊重のまちをつくります。

### まちづくりの視点7 育み、育まれるまちづくり

倉吉がこれまで大切に育んできた“くらしよし”の文化や風土をさらに育み、豊かな未来を拓く子どもたちや大人たちがともに育み合いながら、次の世代へしっかり“くらしよし、くらしよし”を引き継いでいくまちをつくります。

1.持続可能：経済発展のみを優先するのではなく、自然環境や社会も両立して維持することで、将来世代の利益も損ねずに長期的な視点ですべての人のニーズを満たすこと。

2.ポップカルチャー：大衆向けの文化全般のことを表すが、現在では主に若者文化としての意味合いが強い。漫画、アニメ、映画、ゲーム、ライトノベル、ポピュラー音楽、テレビなどのことを指す。

## 5. 倉吉市の強みを強化し、弱みを克服するために

倉吉市の強みや弱みを把握するために、統計データや各種資料等からみる倉吉市の特徴について、内部環境としての“強み”“弱み”、外部環境としての“機会”“脅威”の4つの視点から整理し、分析を行いました。この手法をSWOT分析といいます。

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	<p><b>強み = Strengths</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「住みよさランキング<sup>1</sup>」安心度全国6位</li> <li>◇元気な高齢者の増加</li> <li>◇白壁土蔵群・赤瓦、温泉等の観光資源や豊かな歴史文化遺産</li> <li>◇緑の彫刻プロムナード、前田寛治大賞、菅橋彦大賞</li> <li>◇鳥取県立美術館の令和7年春オープン</li> <li>◇ニーズに応じた子育て支援・不妊治療助成</li> <li>◇広大な森林、県内有数の農業地帯</li> <li>◇学校教育の充実（高度専門大学校の設置）</li> <li>◇空き家等を利活用した移住・定住の取組</li> <li>◇『レトロ&amp;フルーツリズム』の進展</li> <li>◇スポーツアクティビティ<sup>2</sup>に対するニーズの高まり</li> <li>◇スポーツライミング<sup>3</sup>施設、自転車競技場、関金総合運動公園・関金温泉や大山国立公園</li> <li>◇緊急通報システムの設置、民間企業などとの見守り協定締結</li> </ul>	<p><b>弱み = Weaknesses</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇人口減、若者の流出</li> <li>◇高齢者世帯・高齢者単身世帯の増加</li> <li>◇農林業従事者の高齢化、若者の担い手不足</li> <li>◇既存商店街のにぎわい低下</li> <li>◇娯楽・ショッピング・飲食施設等若い世代も楽しめる街の魅力不足</li> <li>◇SNS等を活用した市内外へのPR不足</li> <li>◇雇用創出のための企業が不足</li> <li>◇実質公債費率の高さからの財政の硬直化</li> <li>◇公共交通の利便性が低い</li> <li>◇地域コミュニティの希薄化に伴う地域防災力の低下</li> <li>◇農家戸数、経営耕地面積の減少</li> <li>◇農業従事者の減少と高齢化</li> <li>◇需要減少や消費者ニーズの多様化、インターネットを利用した商品販売の急速な浸透</li> <li>◇公共交通の減少</li> <li>◇日帰り、立ち寄りの旅行客の割合が大きい</li> </ul>
外部環境	<p><b>機会 = Opportunities</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇コロナ禍における東京一極集中是正及び地方創生、田園回帰の流れ</li> <li>◇環境問題への意識の高まり</li> <li>◇AI<sup>4</sup>やICT<sup>5</sup>の進歩、5G<sup>6</sup>ネットワークの拡大</li> <li>◇テレワークやワーケーション<sup>7</sup>の定着促進</li> <li>◇農産品を活用した6次産業化<sup>8</sup>やスマート農業<sup>9</sup>の進展</li> <li>◇環境ビジネスの市場規模の拡がり</li> <li>◇県内就職（Uターン率）が向上</li> <li>◇「スマートモビリティチャレンジ<sup>10</sup>」の拡大</li> <li>◇人生100年時代、健康寿命の延伸</li> <li>◇ボランティアや助け合いの意識の向上</li> <li>◇クールジャパン戦略の進展</li> </ul>	<p><b>脅威 = Threats</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇地域間競争の激化</li> <li>◇低年齢の子どもたちの保育需要の高まり</li> <li>◇全国的な少子高齢化進展に伴う制度改正等による社会保障費等の自治体負担の増加</li> <li>◇多発する自然災害</li> <li>◇感染症リスクの拡大・長期化</li> <li>◇地球温暖化等の環境問題</li> <li>◇コロナ禍における観光需要の大幅な減少</li> <li>◇認知症の増加</li> <li>◇8050問題<sup>11</sup>の発生と深刻化</li> <li>◇進学や就職での若者の流出</li> <li>◇子どもの減少</li> <li>◇人間関係の希薄化</li> </ul>

「強み = Strengths、弱み = Weaknesses、機会 = Opportunities、脅威 = Threats」に分けた本市の特徴を前提にして、本市のこれからのまちづくりについて考えると、次のような課題を見出すことができます。



	機会 ○	脅威 T
強み S	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「住みよさランキング」安心度全国6位</li> <li>◆自然環境・地域資源をPRした観光戦略</li> <li>◆若い世代の移住・定住者の増加推進</li> <li>◆元気高齢者の増加による健康寿命の延伸</li> <li>◆レトロ（歴史や伝統文化など）とクール（ポップカルチャー<sup>12</sup>）が融合した『レトロ&amp;クールツーリズム』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆隣接市町との協力による観光客流入増</li> <li>◆自然環境・森林保護への取り組み</li> <li>◆感染症リスクの拡大・長期化</li> <li>◆進学や就職での若者の流出</li> </ul>
弱み W	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆企業誘致・本社機能誘致及び雇用創出</li> <li>◆若者の移住・定住・起業・創業支援</li> <li>◆需要減少や消費者ニーズの多様化、インターネットを利用した商品販売の急速な浸透</li> <li>◆移動販売や買い物バスの運行など環境づくりの整備</li> <li>◆日帰り、立ち寄りの旅行客の割合が大きい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆農林業従事者の新たな担い手確保・育成</li> <li>◆多発する自然災害への対応強化</li> <li>◆保育ニーズの多様化への対応強化</li> <li>◆新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、観光需要が大幅に減少</li> <li>◆認知症の増加</li> <li>◆8050問題の発生と深刻化</li> </ul>

## SWOT分析から見える課題

### 【機会】

- ①住みよさ、豊かな自然や地域資源をPRし、観光戦略に活かす必要があります。
- ②雇用創出を行い、若い世代の移住・定住者を増やす必要があります。
- ③元気な高齢者の増加から、健康寿命<sup>13</sup>の延伸をPRする必要があります。
- ④『レトロ&クールツーリズム』を推進し、観光客の増加だけでなく市内の滞在時間を伸ばすための工夫をしていく必要があります。
- ⑤インターネットを利活用したPRや販路開拓を強化する必要があります。

### 【脅威】

- ①地域間競争ではなく、協力による観光客流入増を目指す必要があります。
- ②保育ニーズの多様化に対応する必要があります。
- ③多発する自然災害への対応を強化する必要があります。
- ④農林業従事者の高齢化、若者の担い手不足に対応する必要があります。
- ⑤新型コロナウイルス感染症の拡大や長期化に対応をしていく必要があります。

1.住みよさランキング：東洋経済新報社が、全国の市と特別区を、「安心度」、「利便度」、「快適度」、「富裕度」の4項目において偏差値を算出し、順位付けしたもの。

2.スポーツアクティビティ：旅行先での体を使ったさまざまな遊び。

3.スポーツクライミング：人工壁にカラフルな突起物があり、それに手や足をかけ、ロープなどの道具を使わずに自身の身体ひとつで登る競技。

4. AI：Artificial Intelligenceの略。人工的な方法による学習、推論、判断等の知的な機能の実現及び人工的な方法により実現した当該機能の活用に関する技術のこと。

5. ICT：Information & Communications Technologyの略で、情報・通信に関連する技術の総称。

6. 5G：「超高速」だけでなく、「多数接続」「超低遅延」といった特徴を持つ第5世代移動通信システムのこと。

7. ワークेशन：仕事（work）と休暇（vacation）を組み合わせた造語で、観光地やリゾート地などで休みを取りつつテレワークをする働き方を指す。

8. 6次産業化：農林漁業者等が必要に応じて農林漁業者等以外の者の協力を得て主体的に行う、1次産業としての農林漁業と、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取組

9. スマート農業：ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業のこと。

10. スマートモビリティチャレンジ：将来の自動運転社会の実現を見据え、新たなモビリティサービスの社会実装を通じた移動課題の解決及び地域活性化を目指した、地域と企業の協働による意欲的な挑戦を促す経済産業省と国土交通省のプロジェクト

11. 8050問題：80歳代の親と50歳代の無業のひきこもり者が同一世帯で生活しており、収入確保や介護に支障が生じるなどにより、社会的に孤立している問題。

12. ポップカルチャー：大衆向けの文化全般のことを表すが、現在では主に若者文化としての意味合いが強い。漫画、アニメ、映画、ゲーム、ライトノベル、ポピュラー音楽、テレビなどのことを指す。

13. 健康寿命：平均寿命から寝たきりや認知症など介護状態の期間を差し引いた期間

## 6. まちづくりの基本目標

### 基本目標1 地域資源を最大限に活かして躍動するまちづくり【産業振興】

地域の特性を活かした農畜水産業、林業、商工業などの産業基盤の強化、地域の歴史・伝統・文化・芸術・自然などに新たなコンテンツを融合させた個性豊かな観光地の形成、地域の観光施設・文化施設・運動施設などを有機的に繋げる多様で気軽な移動手段の創出など、地域にあるさまざまな資源を活かし、さらにそれを発展させた新たな資源を創出することで、地域の安定した雇用を生み出し、稼げる仕組みづくりに取り組みます。また、さまざまな立場や状況にいる方をはじめ全ての方が、テレワーク<sup>1</sup>やワーケーション<sup>2</sup>など時代に合せた多様な働き方ができ、働きやすい環境の整備をする、新たな先端技術をさまざまな産業の中に取り入れるなど、仕事を行いやすい環境を整えます。

### 基本目標2 誰もが自分らしく生きることのできる共生のまちづくり【健康福祉人権】

部落差別をはじめ、障がい、性別、性的志向・性自認、年齢、国籍、感染症等を理由とする差別や偏見をなくし、全ての人がお互いの尊厳を守るために人権を尊重し、誰もが健康的で生き生きとした人生を送れるよう、多様な個人の能力が発揮される共生のまちづくりを進めます。また、住民組織、ボランティア団体、専門機関などの各種団体とも連携しながら地域全体で支え合う地域共生社会<sup>3</sup>づくりを進めることにより、悩みや困難を抱える方を早期に発見し、適切な支援につなげられるような仕組みづくりにも取り組みます。さらに、相談や支援を行う体制、保健・医療体制を充実させ、誰もが安心して地域に住み続け、生き生きとした生活を送ることができるまちづくりを進めます。

### 基本目標3 未来を拓く人を育て、芸術が輝くまちづくり【教育文化】

子どもたちが、幅広い知識と豊かな心を身に着け、また、新たなことに挑戦したり、苦手なことを克服したりしながら、一人ひとりの生きる力を高め、成長し、これからの未来を拓くことのできる人になるよう、家庭や学校、地域などが協働して、人を育み、倉吉市の教育を進めます。また、さまざまな機関・団体などと連携し、「学びの場」を増やし、その場を中心に生涯学習<sup>4</sup>や文化活動を活発化させることや、地域の歴史・伝統・文化・芸術・自然などあらゆるコンテンツを活用し、また文化施設などを有機的に繋げることで、活力ある地域コミュニティ<sup>5</sup>を形成するなどし、市民が郷土に愛着を持ち、文化や芸術が輝くまちづくりを進めます。

1.テレワーク：情報通信技術を利用して正規の勤務地以外の場所で働く、場所と時間の制約を受けない柔軟な働き方。

2.ワーケーション：仕事（work）と休暇（vacation）を組み合わせさせた造語で、観光地やリゾート地などで休みを取りつつテレワークをする働き方を指す。

3.共生社会：制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を越えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会。

4.生涯学習：市民一人ひとりが、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習すること。

5.地域コミュニティ：地域の結びつきが強く、自主的に組織された共同体で、公益性を有する活動を行うもの。

## 基本目標4 安全・安心なまちづくり【生活環境】

4 R運動<sup>6</sup>の実践や自然エネルギーの利用促進による循環型社会<sup>7</sup>の形成、資源・エネルギーの有効活用など、市民一人ひとりの環境意識を高めることで地球温暖化対策を進めていきます。また、安全でおいしい水の供給、公共下水道への接続、街灯の設置、道路の危険箇所改修などを進めていくとともに、交通の安全や防犯意識を高めてもらうための啓発を行うなど、地域で安全に安心して暮らせる環境づくりに取り組みます。さらに、こうした環境を整えていくことを市の魅力の一つとして発信し、移住者やUターン者、関係人口<sup>8</sup>の増加につなげていき、こうした外からの視点も活かしながらまちづくりを進めていきます。

## 基本目標5 災害に強く、快適で潤いのあるまちづくり【都市基盤】

計画的な土地利用により、中心市街地には県中部の中心都市にふさわしい多様な都市機能を充実させるとともに、周辺の都市機能とも効率的に連携させ、都市と豊かな自然・歴史・文化が調和した快適で潤いのあるまちづくりを進めます。また、効率的な道路網の形成や公共交通ネットワークの充実により、移動の利便性を向上させ、誰もが暮らしやすい環境をつくるとともに、市民の災害への意識を高め、「自助」、「共助」、「公助」<sup>9</sup>がそれぞれの役割のもと、互いに連携し協働することで、市民や行政などが一体となって地域防災力を高め、自然災害による機能不全を避けられる災害に強く安心安全に暮らせるまちづくりを進めます。



倉吉まち応援プロジェクト～ひなビタも応援にいっくめう！  
(平成28(2016)年11月12日)



倉吉打吹流しびな



消防ポンプ操法大会

6.4 R運動：ごみとなるものを持ち込まない（Refuse：断る）、ごみを減らす（Reduce：減らす）、繰り返し使う（Reuse：再利用）、資源として別のものに再生して利用する（Recycle：再生利用）の頭文字をとった言葉で、資源循環型社会を目指す運動のこと。

7.循環型社会：ごみの発生が抑えられ、ごみが発生した場合は、循環的に利用できるものについては資源として利用し、循環的に利用できないものについては適正に処分されることにより、天然資源の消費を抑え、環境へ与える影響ができる限り低減される社会のこと。

8.関係人口：定住人口や交流人口でもない、地域づくりの担い手など地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。

9.「自助」、「共助」、「公助」：「自助」とは、災害が発生したときに、まず自分自身の身の安全を守ること。この中には家族も含まれる。「共助」とは、地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うこと。「公助」とは、市町村や消防、県や警察、自衛隊といった公的機関による救助・援助のこと。

